

◆授業のポイント◆

- ・ 学習意欲を高めるための教材・教具の工夫
- ・ 学んだ知識，身に付けた技能を活用し，課題解決を目指した授業の工夫

保健体育科学習指導案

日 時 平成22年6月4日（金）2校時
 学 級 3年1・2・3組（男子18名女子18名計36名）
 授業者 教 諭 弓 削 壮 司

1 単元名

球技（バレーボール）

2 単元について

(1) 教材観

球技は，ボールなどを媒介として，集団対集団，個人対個人で攻防を展開し得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし，チームの課題や自己の能力に適した課題の解決に取り組んだり，ゲームを楽しんだりする運動である。その中でもバレーボールは，ネットを挟んだ2つのチームが相互に攻防しあい，得点を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができるネット型の集団スポーツである。

バレーボールの技術は，サービス・パス・スパイク・ブロック・レシーブなどが，統合され融合したものである。また，チームプレーを活かした様々な攻撃と防御の技術は，スピードと変化のあるゲームを生み出すことができ，自分たちや相手チームの特徴，技能の程度に応じた作戦の立て方や，それに適した個人的，集団的の習得と効果的な活用がゲームの勝敗を分け，バレーボールの楽しさにつながることになる。そのため，瞬発力や巧み性，敏捷性などの身体能力に加え，練習やゲームのしかたを工夫する思考力や判断力が必要不可欠となる。このような特性をもったバレーボールは，生徒たちに好まれ，クラスマッチの種目に取り上げられたり，昼休みの遊びの中でも多く行われたりしている。しかし，その反面，技能の低い生徒は，充実感や存在感を味わえないため，バレーボールへの関心・意欲が低くなることもある。

(2) 生徒の実態

① アンケート結果（調査総数 36名）

項 目	回 答	男 子 (割合)	女 子 (割合)	全 体 (割合)
1 保健体育の学習の中でどの運動（種目）が好きですか。	ア 体づくり運動	1人 (6%)	0人 (0%)	1人 (3%)
	イ 器械運動	0人 (0%)	2人 (11%)	2人 (6%)
	ウ 陸上競技	1人 (6%)	1人 (6%)	2人 (6%)
	エ 水泳	2人 (11%)	1人 (6%)	3人 (8%)
	オ 球技	12人 (66%)	13人 (71%)	25人 (69%)
	カ 武道	2人 (11%)	1人 (6%)	3人 (8%)
キ ダンス	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	
2 バレーボールが好きですか。	ア 好き	11人 (61%)	8人 (44%)	19人 (53%)
	イ どちらかというが好き	7人 (39%)	10人 (56%)	17人 (47%)
	ウ どちらかという嫌い	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	エ 嫌い	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
3 2の理由	・楽しいから ・みんなで協力できるから ・ある程度できるから ・部活でもしているから ・パスが続けられたら嬉しい ・あまりやったことがないから ・痛いことがあるから			
4 これまでのバレーボールの授業や経験の中で，どのようなことが身についていると思いますか。（複数回答）	ア アンダーハンドパスの技能	8人 (44%)	12人 (67%)	20人 (56%)
	イ オーバーハンドパスの技能	9人 (50%)	11人 (61%)	20人 (56%)
	ウ サービスの技能	12人 (67%)	11人 (61%)	23人 (64%)
	エ レシーブの技能	12人 (67%)	9人 (50%)	21人 (58%)
	オ スパイクの技能	8人 (44%)	6人 (33%)	14人 (39%)
	カ ブロックの技能	8人 (44%)	2人 (11%)	10人 (28%)
	キ 作戦の立て方	4人 (22%)	3人 (17%)	7人 (19%)
	ク ルールや審判法	3人 (17%)	2人 (11%)	5人 (14%)
ケ その他	0人 (0%)	1人 (8%)	1人 (3%)	

5 これからのバレーボールの授業でどのようなことを身に付けたいですか。(複数回答)	ア アンダーハンドパスの技能	5人 (28%)	9人 (50%)	14人 (39%)
	イ オーバーハンドパスの技能	6人 (33%)	10人 (56%)	16人 (44%)
	ウ サービスの技能	9人 (50%)	10人 (56%)	19人 (53%)
	エ レシーブの技能	7人 (39%)	11人 (61%)	18人 (50%)
	オ スパイクの技能	12人 (67%)	12人 (67%)	24人 (67%)
	カ ブロックの技能	9人 (50%)	11人 (61%)	20人 (56%)
	キ 作戦の立て方	5人 (28%)	11人 (61%)	16人 (44%)
	ク ルールや審判法	5人 (28%)	10人 (56%)	15人 (42%)
	ケ その他	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
	6 バレーボールの授業にどのようなことを求めますか。	・試合がしたい ・コンビネーションプレー ・高い技能を身に付けたい ・楽しさ ・おもしろさ ・団結力 ・スパイクのコースの打ち分け ・正式ルールでの試合		

② 考察

事前アンケートの結果では、体育の授業の中で「球技が好き」と答えた生徒の割合69%であり、バレーボールを「好き」、「どちらかというが好き」と答えた生徒の割合は100%と興味・関心が非常に高い。技能面においては、これまでの体育の学習や運動経験でパス・サービス・レシーブの技能を身に付けていると答えた生徒が全体の半数を占めたのに対して、スパイク・ブロックなどの技能を身に付けていると答えた生徒は男女共に5割を下回っている。また、この単元学習ではスパイクやブロック等の個人的技能やコンビネーションプレーなどの集団的技能、作戦の立て方やルール・審判法などの知識や思考力・判断力をバランスよく高めたいと感じている生徒が多いことがわかる。以上のことから、本単元ではこれまでの学習や運動経験で身に付けてきた知識・技能を活用し、課題解決を目指した授業の工夫を図ることで思考力・判断力を高めていきたい。

(3) 指導観

単元を通して、バレーボールに主体的に取り組み、作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームが展開できるようにすることを学習のねらいとする。指導の手立てとして、学習意欲を高めるための教材・教具の工夫を図っていきたい。具体的には、自分の身体能力を把握し、課題意識をもって学習に取り組ませるための個人カルテを作成し、活用させることで主体的に授業に取り組む姿勢を身に付けさせていきたい。これに加え、学んだ知識、身に付けた技能を活用し、課題解決を目指した授業づくりを行っていきたい。具体的にはスキルテストやタスクゲームを通して目指す動きと実際の動きを図や映像で客観的に比較させ、自己やチームの課題に応じた練習計画や作戦を工夫して立案させることで思考力・判断力の向上を図っていきたい。また、ドリルゲーム（反復練習）や味方や相手のあらかじめ決められた動きに対応する練習（約束練習）を取り入れることで技能の向上を図りたい。特に、ポジションの役割に応じたボール操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れを組み立てたりして、相手側のコートの中をめぐり攻防を展開できるようにしていきたい。

国語科との言語活動の関連として、個人カルテへの記録や技能のポイントの説明、自分やチームの課題や解決のための練習方法を話し合う活動を通して、筋道を立てて説明する力の育成を図りたい。

3 単元の目標

- (1) バレーボールに主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にし、チームにおける自己の責任を果たしながら互いに協力して作戦などの話し合いに貢献することができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 自分やチームの目指す動きを明確にしなが、工夫して練習を行うことができる。
(思考・判断)
- (3) 役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いた場所をめぐり攻防を展開することができる。
(技能)
- (4) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解することができる。
(知識・理解)

4 単元の指導・評価計画（全12時間）

時	段階	ねらい及び学習内容	評 価 規 準			【基礎的・基本的な知識・技能の習得に関するつまずきの様相】 ○ 具体的な指導の手立て
			運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	
1 . 2	オリエンテーション・スキルテスト	1 球技の学習内容や進め方などを理解し、見直しをもって取り組むことができる。 (1) バレーボールの学習内容を振り返り、学習の進め方を知る。 (2) スキルテストを行い、自己の課題を確認する。	・ バレーボールの楽しさや喜びを味わえるように進んで学習に取り組もうとする。	・ 学習についての見直しをもととしている。 ・ 自分の技能を把握し、目標を設定している。	・ 基本的な技能を身に付けている。	【特性が理解できない場合】 【学習の見通しが立てられない場合】 ○ 学習資料やVTR等の資料を参考にしながら、バレーボールの特性や学習の流れについて考え、思いだすきっかけをつくる。 (学習資料、VTR等を用いる。) 【自己の課題が見つけれない場合】 ○ 視覚教材を用いて目指す動きと自分の動きを比較させ課題を明確にさせる。
3 . 4 . 5 . 6	(できない運動を覚える段階) 学習Ⅰ	2 今もっている技能でゲームを楽しむ。 (1) タスクゲームを通じてチームの課題を明らかにする。 ① 6対6のパスゲーム ② 三段攻撃ゲーム (2) ゲームを通じて明らかになった自分やチームの課題に基づきドリルゲームや約束練習を行う。 ① 三角パス ② サーブスレーブ ③ コンビネーションプレー	・ 互いのよさを見つけようとする。 ・ 自分の係や役割などを果たそうとする。 ・ 技能を高める練習に意欲的に取り組もうとする。 ・ 互いに教え合ったり、協力したりしながら進んで練習に取り組もうとする。	・ チームの課題を確認し、技能の向上につながる練習を工夫して行っている。 ・ 学習資料を有効に活用しながら、チームの作戦を工夫している。	・ 身に付けている個人的技能をタスクゲームの中で活用できる。 ・ レシーブ・トススパイクを生かしたゲームができる。	【ミスを恐れて積極的になれない場合】 ○ 「バレーボールを楽しむの一番大切なことは何だったかな」と想起させたり、「得点が入ったらみんなで喜ぼう」など、参加意識を高めたりする。 ○ ゲーム中の歓声や指示を出せる雰囲気作りを行う。 【三段攻撃のための課題が見つけれない場合】 ○ 自分やチームの課題に気づき、課題を設定して練習できるよう学習資料などを活用した話し合いを促し、確認させる。 【チームや自分の学習目標の設定や効果的な練習方法がわからない場合】 ○ 「できるだけ仲間の運動に関心をもってみよう」「チームや自分のよいところは」などの助言で思考を促す。 ○ チームミーティングの時間を設定したり、場の工夫を行ったりする。 【パスレシーブがコントロールできない場合】 ○ 「ボールが飛んでくる方向を予測して早く準備しよう」「パスをしたい方向に必ず体を向けよう」「できるだけ高くパスし、パスした人に声をかけよう」などの助言を行う。 【三段攻撃ができない場合】 ○ 「役割分担が、しっかりできているかな」「オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの使い分けがしっかりできているかな」「フォーメーションを考えてみよう」などの助言を行う。 ○ 課題に応じた練習方法を例示したり、行い方をアドバイスしたりする。チーム練習やゲームの様子を確認し、三段攻撃に必要な技術的指導をする。 【ゲームの進め方や審判の方法がわからない場合】 ○ 理解を助ける資料(図やルールブック)を活用し、理解を深める。 ○ 実際のゲーム中、コートの外から進め方や審判の行い方について教師が声かけや問いかけを行い、確認させ、ゲームで使うことができるようにする。 ○ 審判講習会を実施し、審判方法やルールの確認を行う。
⑦ . 8 . 9	(できる運動をよりよいものにする段階) 学習Ⅱ	3 高まった技能でゲームを楽しむ。 (1) 正式に近いルールでタスクゲームを行う。 (2) チーム対抗のタスクゲームとゲームの結果にもとづいた課題練習を行う。	・ 互いに協力し、安全に留意しながら練習やゲームに進んで取り組むことができる。 ・ 互いに教え合ったり、協力したりしながら、同じ課題に向かって学習しようとする。	・ 自分やチームの課題に沿った練習や作戦の立て方を工夫している。 ・ 相手チームの技能の程度に応じた作戦を立ててゲームに生かしている。	・ サーブスレーブ・スパイクレシーブから攻撃することができる。 ・ タスクゲームやチーム練習を通して、集団的スキルを高めることができる。	・ ゲームの運営方法や審判の仕方を理解している。 ・ 課題解決に必要な合理的な練習方法を理解している。
10 . 11 . 12	(身に付けた技能を状況に応じて発揮できるようにする段階) 学習Ⅲ	4 学年全体によるバレーボール大会を行う。 (1) 審判や役割を分担し、これまでの学習を生かしたトーナメント戦を行う。 (2) 単元を振り返り、感想や意見をまとめる。	・ ルールを守り、審判の判定や指示に従い、勝敗や結果を受け入れようとする。	・ 相手チームに対応した作戦を立てている。	・ チームにおける、自分の役割を果たすことができる。 ・ 自分たちのチームのよさを生かしてゲームを行うことができる。	・ ゲームの運営や審判法を理解しスムーズに行っている。

5 本時の実際

(1) 指導区分 7 / 12

(2) 目標

- ① サービスレシーブ・スパイクレシーブから攻撃をすることができる。
- ② 自分やチームの課題に沿った練習方法や作戦の立て方を工夫することができる。

(3) 授業設計の工夫

② 学習意欲を高めるための教材・教具の工夫

個人カルテを活用し、課題意識をもって意欲的に学習に取り組ませる。

② 学んだ知識、身に付けた技能を活用し、課題解決を目指した授業の工夫

ア 学習資料を活用させ、チームの課題に基づいた約束練習を行い、技能と思考力・判断力を高める。

イ タスクゲームを行い、身に付けた技能を活用させる。

(4) 展開

過程	時間	学 習 活 動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業のポイントについて
準備 準備運動 健康観察 体づくり運動	10分	1 安全点検、体調確認をする。 2 コートランニング、準備運動 3 あいさつ、健康観察 4 2人1組で体づくり運動をする。 (1) トス&パス それぞれボールを持ち、1人が投げ上げている間にパスの交換を行う。 (2) バウンドラリー 向かい合い、ボールをバウンドさせて互いに打ち合う。	○ コートの安全確認をする。 ○ 生徒の表情や様子を確認する。 ○ 欠席者、見学者を把握し、生徒一人一人の健康状態を確認する。 ○ 楽しみながら運動できるような雰囲気をつくる。
目標確認 課題研究 〔 診断 ・ 思考 ・ 練習 ・ 定着 ・ 評価 〕	35分	5 本時のねらい・学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">サービスレシーブ・スパイクレシーブから攻撃を組み立てよう。</div> 6 ドリルゲームをする。 (1) 短いボールで慣れる ネットをはさみずに対人でサービスレシーブの練習を行う。 (2) ランニングレシーブ 硬軟とりまぜたボール出しに対して、アタックラインからバックラインまでのエリアを守り、センターへ返球する。 7 チームごとに約束練習を行う。 ○ 学習資料を参考にして、前時に計画した約束練習に取り組む。 8 チーム対抗でタスクゲームに取り組む。 【ルール】 (1) 15点マッチ (2) ローテーションあり (3) アタックラインなし 9 チームごとにミーティングを行い、次時の約束練習の計画を立てる。	○ 本時の学習のねらいを理解させる。 ○ 本時の学習の流れを理解させ、学習の見通しをもたせる。 ※ 個人カルテを活用し、課題意識をもって意欲的に学習に取り組ませる。 ○ ドリルゲームの方法を簡潔に伝える。 ○ チーム全員で協力させ、積極的に練習を行わせる。 ○ チームで声を出し、練習を盛り上げさせる。 ○ 良い動きや工夫した動き、雰囲気を盛り上げるような声かけに対しては賞賛・激励を行う。 ○ 学習資料を提示し、約束練習に取り組ませる。 ◎ 自分やチームの課題に沿った練習方法や作戦を工夫することができたか。 ※ タスクゲームを行い、身に付けた技能を活用させる。 ◎ 身に付けた技能をタスクゲームの中で活用できたか。
整理運動 評価・反省 あいさつ 後始末	5分	10 整理運動をする。 11 本時の学習を振り返り、評価・反省をする。 12 次時の学習内容を確認する。 13 健康観察、あいさつ、後始末	○ 生徒の健康状態を確認しながら整理運動を行わせる。 ○ 生徒に本時の学習で学んだことや気づいたことを発表させる。 ○ 本時の学習を踏まえ、次時における課題を意識させる。 ○ 健康状態と後始末の確認をする。

(5) 評価

- ① サービスレシーブ・スパイクレシーブから攻撃をすることができたか。
- ② 自分やチームの課題に沿った練習方法や作戦を工夫することができたか。